

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	固体音小委員会		主 査 名：稲留 康一 就任年月：2013 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：岡野 利行
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・床衝撃音遮断性能の測定・評価方法に関する諸課題を解決するため各種検討を実施する ・最大 A 特性音圧レベルに影響する低音域における室内音圧レベル分布や吸音の影響について検討する ・床衝撃音予測手法に関する情報収集を行う ・13 年度はボール衝撃源による床衝撃音測定データ (A 特性音圧レベル、床材の床衝撃音レベル低減量、暗騒音等) の収集・整理を実施 ・14 年度は低音域における音圧レベル分布や吸音の影響に関する実験を行うとともに床衝撃音予測手法に関する勉強会を実施 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し		
	主査：稲留康一 (奥村組) 幹事：矢入幹記 (鹿島建設)、中森俊介 (小林理研) 委員：朝倉巧 (清水建設)、岩本毅 (三井住友建設)、井上勝夫 (日大理工)、漆戸幸雄 (フジタ)、河原塚透 (大成建設)、中澤真司 (鉄建建設)、濱田幸雄 (日大工)、平光厚雄 (国総研)、藤橋克己 (前田建設)、松岡明彦 (戸田建設)、村上剛士 (日総試)		
設置 WG (WG 名：目的)	○鉄道固体音測定法検討 WG 鉄道固体音など、床衝撃音以外の固体音に関する測定や評価の状況について、文献や委員の測定結果を調査して把握することを目的とする		
2014 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. ボール衝撃源による床衝撃音レベルの低音域における室内音圧レベルを矩形床衝撃音実験室で測定 (吸音の有無についても調査)。 2. FDTD 法、モード関数法に関する勉強会を実施して、最近の床衝撃音予測方法の理解を深めた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 委員会発足時の目標に従い活動を実施しているので、特に問題はない。

2014 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p><u>1. 床衝撃音遮断性能の測定・評価方法に関する諸課題の検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・床衝撃音遮断性能の日本建築学会遮音性能規準策定に向けた諸課題に関する文献調査を完了し、その結果を固体音小委員会の HP に公開した（公開文書名：「床衝撃音遮断性能の日本建築学会遮音性能規準策定に向けた諸課題に関する文献調査結果」） ・ボール衝撃源による床衝撃音レベルの低音域における室内音圧レベルを矩形床衝撃音実験室にて測定。吸音の有無にも着目している（実験の実施、現在分析中） <p><u>2. 床衝撃音予測手法の調査</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDTD 法、モード関数法の説明を受け、最近提案されている床衝撃音予測手法の実情について理解を深めた

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。